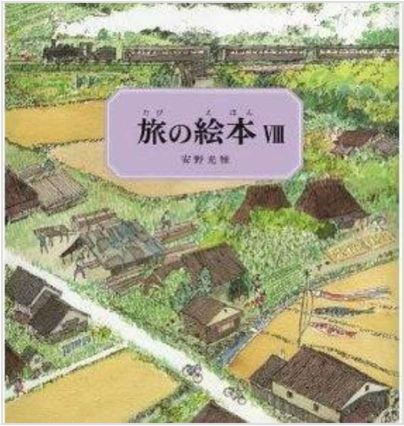
No92　2014年4月号

沙羅の樹文庫だより



安野光雅さんの　旅の絵本Ⅷ　です

　さまざまな国を旅して、今回はふるさと日本のくらしを旅します。日本の昔ながらの自然に息づく人、建物、季節の折々の行事が見開きいっぱいに大きく小さく描かれていて、ページをめくるごとにほーう、ふーう、と心が広がっていきます。おとなも、おとなにこそ、眺めてほしい絵本です。

心よ　　八木重吉・詩

こころよ
では　いっておいで
しかし
また　もどっておいでね
やっぱり
ここが　いいのだに
こころよ
では　いっておいで

✿今年の開館スケジュル✿

◆5月はロング 16日(金)～21日(水)
—アートフェスティバル参加—
若葉のころのおはなし会は17夕です。
◆6月は通常 14日(土)15日(日)
◆7月は通常 19日(土)20日(日)
★20日は「海の日のおはなし会」
★21日は開館記念の子ども催し物
◆8月はロング 15日(土)～20日(水)
◆9月は通常 20日(土)　21日(日)
◆10月は変則 25日(土)26日(日)
◆11月は通常 15日(土)16日(日)
◆12月は通常 20日(土)21日(日)

文庫の時間：土曜日は午後２時～５時
日曜日は午前１０時～午後３時

❤毎月開館日(日曜 10:30から)「子どものための小さなおはなし会」❤

✿おはなし沙羅の勉強会✿
毎月開館日(土)　11：00～13：00

沙羅の樹文庫　大室高原７－１２２
０５５７－５１－３７３７

文庫あれこれ◆本箱騒動?! 近くに住む方が、大きな書棚をくださると聞いて、スタッフのM+Nさんのご主人様方まで煩わして、いただいてきたものの、足の踏み場もないほど溢れた本を整理できると浅はかに考えたものの、その書棚を置く場所も作られず…。顛末は、ありがたいことに、さる自治会で活用していただけるようになりホッとしました。◆そんなこともあり、文庫の整理もあり、で２週間前に３日ほどやってきました。緑が萌え出るわくわく感を感じたのですが、わが沙羅の樹はそのとき、まだ冬から目覚めていないようでした。それなのに、昨日来たら、木全体、かわいらしい若葉が風にそよそよ揺れているではありませんか。大室山も若草色におおわれて。◆これからますます木や草は緑を増してゆくのですね。◆文庫の庭では、おおでまりがたくさん花をつけ、緑から白に変わろうとしていますし、今年は白もっこうバラのアーチが楽しみです。◆５月のアートフェスティバルに今年も参加します。３万円の共益費?を払って参加する意味あるの?とこわ～い?お目付け役スタッフのN氏に言われるのですが、飛び込みでやってきて、こんなところにこんな本の世界があるなんて!と喜んでお茶を飲んでおしゃべりして、伊豆高原が文庫のせいでちょっと懐かしいところになる人がひとりでもいたらうれしいのです。◆さて、今年も、文庫に隠れている本を引っ張り出しての≪懐かしい本をみつけよう展≫です。いくつかのテーマで。◆たとえば、芥川・直木賞受賞の本の展示(古いのがあまりないことに気づき、どうやって集めようかと思っています。お手元にあったら、お貸しください。昭和年代の受賞作を。)◆子どもの本では、直接間接に戦争をテーマにした本に目覚めてもらいます。これは結構あるはずです。大人の人も読むに堪えうるものが多いです。この機会にぜひ。◆若葉のころのおはなし会は、庭にクリスマスローズを植えてくださった二宮の方をゲストにお招きしています。文庫のスタッフも頑張って練習しています。いらしてください。まだ車を運転できる明るさの時間ですよ。◆右の桜は２週間前のもの。息子が40年前小学入学の記念にもらったもの、未だによく咲きます。◆今月も新刊をたくさんいれました。週末のお天気が心配。ちょっと肌寒いけど、でも春です!（西村）

2014年4月に読んだ本についての感想

By　森林浴

『老人漂流社会』　ＮＨＫスペシャル取材班著　主婦と生活社発行　２０１３年１２月第１版

老齢化社会へ向けてまっしぐらに進んでいる日本。この本を読んで思わず暗澹たる気持ちになった。いろんな事情で家族が面倒をみられなくなった高齢者の最終的な住まいの一覧表が７８～７９頁にある。最後の決め手は本人の経済力。月収 20 万円位ないとまずいらしい。しかし、厚生労働省の統計によれば、個人ベースで年金が年間 200 万円以下、月にして 16 万 6 千円以下の年金受給者が全体の約８０%､8 万 3 千円以下が４２%なのである。

漂流老人の最後の行きどころは生活保護を受けながら入る**「無料低額宿泊所」ー略して「無低」**。さらに悲惨な認知症の漂流老人は最後には精神科病棟に入るとか。あまりにも暗い話ばかりなので、最後の第 6 章で、茨城県つくば市の老人共同住宅「ぽらりす」の報告がある。費用は食費込 13 万５千円。どこにも行けない老人たちでも明るく暮らしているそうだが、これはある経営者の個人的善意に頼った例外的存在なのである。

『　雑誌　芸術新潮　３　月号』　梅原　猛　親鸞の謎　特集　　新潮社刊　2014 年３月第１版

梅原氏は今 90 歳だそうだ。これは雑誌の特集号だけれども梅原氏の書いた部分が 12～91 頁、なんと約 70 頁ある。（素晴らしい写真が多い）梅原氏の積年の謎は 4 つで、①なぜ 9 歳で出家したのか、②なぜ法然に入門したのか、③なぜ結婚したのか、④悪の自覚はなぜ生まれたのか。残念ながら写真にある資料（古文書）が私にはほとんど読めない。親鸞が源頼朝の甥らしいという事実には驚いたが、平家全盛時代に平家に滅ぼされないためには、「出家する」という選択があったことは理解できる。越後に流刑になったあと、親鸞は 23 年間も東国つまり関東で布教していた。結婚も 2 回あったということらしい。梅原氏の執念深い実地調査には驚嘆させられる。

『　転換期の日本へ　』　ジョン・W・ダワー、　ガバン･マコーマック　著　明田川　融･吉永ふさ子　訳　ＮＨＫ出版刊　　2014年１月初版

この NHK 出版新書はなかなか良いシリーズである。この本もとても良かったし、手元に置いて何か問題が起こった場合には辞書みたいに頼りになる本にしたいので、自分でも 1 冊購入することにした。第 1 章はダワーがサンフランシスコ体制を総括し、第 2 章でマコーマックが属国と題し領土問題を取り上げ、第 3 章で東アジアの将来図を二人で話し合う、という構成。議論が緻密で正確、もとになった事実がすべて注記で示されており、よくある自分の勢いだけで組み立てられた粗雑な時事談義は一切排除されているのが素晴らしい。安部首相・麻生副総理にはどうしても読ませたい 1 冊。

『　Monkey 特集　青春のポール・オースター』　柴田元幸責任編集著　スイッチ・パブリッシング発行　２０１３年１０月　創刊

『　Monkey　Ｖｏｌ．２　』　柴田　元幸責任編集著　スイッチ・パブリッシング　発行　２０１４年

柴田元幸が始めたこの「Monkey」という雑誌は、端から端まで柴田元幸ワールド。文学なかんずく小説が好きでたまらないという人達にはたまらない雑誌だろう。字が小さいのが難点ではあるがふんだんに入れてある絵がまた良いですね。執筆者は英語国の人と日本人と半々くらい、ポール・オースター、村上春樹から高橋源一郎、川上弘美、小川洋子まで多彩。全く新しい形の文芸誌。創刊号にあった門馬太喜という聞いたことのない 81 歳の人が書いた「白足袋」という作品に妙に引き込まれた。

付録：ご参考までに、**村上春樹について。**

4 月 6 日の朝日新聞付録 Globe 紙の Culture 欄の Bestsellers　In　Munich に「ハルキ・ムラカミの風景」という面白い記事があった。ドイツの 3 月の雑誌にドイツのベストセラーの一覧表があって、そこに村上春樹の最近の小説「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の旅」が第 3 位に入っている。それに関連して、かつてドイツの TV の書評番組で、ある女性批評家が**彼の小説を「ファースト・フッド」と評した**ことが記されている。「普通の小説では人間の行動が憎悪、愛、ねたみといった心理的要素によって説明されることで登場人物が現実感を帯びる。このような小説に慣れた人は村上作品には満足できない。彼の登場人物は平板で、記号に近い。小説の中での人間関係も、結合するか、分離するか、安定するか、不安定になるかといった具合に化学反応に似ている。村上文学は、小説の体裁をとっていても、メルヘン、説話、少年文学といった別のジャンルに近いと云うわけだ。」

実をいうと、私は村上春樹の翻訳した外国の小説のファンであり、沢山読んでいるし、初めのころは、彼はてっきり翻訳家とばっかり思っていたものだ。ところが、私には彼の日本語の小説はどれも退屈で、お終いまで読み続けられないのである。だからこのドイツ批評家の批評がピンときたのである。**同感！**なのです。ご異論の方は多いでしょうが。

歌の花たば
チャリティーコンサートへのお誘い

今年も、東日本大震災復興支援のためのコンサートを開きます。
「沙羅の樹文庫」のスタッフの方々、会員の方々も出演されます。文庫の西村さんのお好きな「やぎさん　ゆうびん」やその他、10曲以上、みなさんで楽しく唱う曲も用意しています。
どうぞ、足をおはこび下さい。

とき：　2014年４月22日　14:00開演
ところ：ホテル・アンビエント伊豆高原
さんかひ：無料（義援金を募ります）
といあわせ：柳川由美子
（0557−51−4277）

４月に文庫に新しくはいった子どもの本

絵本

『あかいろうそく』(新美南吉作　鈴木寿雄絵　フレーベル館　13) ID10999　『くつしたのはら』(村中李衣文　こやまこいこ絵　日本標準) ID11001　『うんこ日記』(村中李衣文　川端誠絵　BL 出版) ID10996　『ボタン』(森絵都作　スギヤマカナヨ絵　偕成社 13) ID11063　『おつきさまは １ 年生』(きたやまようこ文　アンドレ・ダーハン絵　講談 14) ID11064　『ハンヒの市場めぐり』(カン・ジョンヒ作　おおたけきよみ訳　光村教育図書 13) ID11000　『なんでも見える鏡』(フィツォフスキ再話　内田莉紗子訳　スズキコージ画　福音館書店) ID10998　『つなのうえのミレット』(エミリー・アーノルド・マッカリー作・絵　文溪堂 13) ID11065　『はだかの王さま』(アンデルセン作　乾侑美子訳　バージニア・リー・バートン絵　岩波書店 04) ID11058　『マッチ箱日記』(ポール・フライシュマン文　バグラム・イバドゥーリン絵　BL 出版 13) ID11066　『せいめいのれきし』(バージニア・リー・バートン文・え　いしいももこやく　岩波書店 12　63 刷) ID11055　『旅の絵本Ⅷ』(安野光雅作　福音館書店　13) ID10997

読み物

『あひるの手紙』(朽木祥作　佼成出版社 14) ID11067　『25 の小さなおはなし』(後路好章編　角川つばさ文庫 12) ID11060　『かあさんのしっぽっぽ』(村中李衣作　BL 出版 14) ID11061　『星空ロック』(那須田淳作　あすなろ書房 13) ID11068　『あん』(ドリアン助川作　ポプラ社 13) ID11069　『島はぼくらと』(辻村深月著　講談社 13) ID11062　『遠い親せき』(ウーリー・オルレブ作　母袋夏生訳　岩波書店 10) ID11056　『くじらの歌』(ウーリー・オルレブ作　母袋夏生訳　岩波書店 10) ID11057　『庭師の娘』(ジークリート・ラウベ作　岩波書店 13) ID11070　『ふくろう模様の皿』(アラン・ガーナー作　評論社) ID11071　『官兵衛、駆ける』(吉橋通夫作　講談社 13) ID11072　『バーバラへの手紙』(レオ・メーター作　上田真而子訳　岩波書店 13) ID11073　『庭園の中の三人左と右』(マーシャ・ブラウン著　東京子ども図書館 13) ID11002　『かつら文庫の５０年』(東京子ども図書館　08) ID11003　『新装板お話のリスト』(東京子ども図書 14) ID11059

広瀬さんにいただいた続きです。

『ふくしまからきた子』(松本猛　松本春野　岩崎書店) ID11044　『さっちゃんのてぶくろ』(内田鱗太郎　金の星社) ID11045　『あったかい雪』(鎌田實　ポプラ社) ID11049　『リーかあさまのはなし』(中村茂　ポプラ社の絵本２１) ID11052　『はしれ　さんてつ、きぼうをのせて』(国松俊英　ＷＡＶＥ出版) ID11054『ラストスパート』(横山充男　あかね書房) ID11017　『小学校の秘密の通路』(岡田淳　偕成社) ID11018　『ライバル』(はまなか　あき　角川学芸出版) ID11019　『てのひら咲いた』(別司芳子　文研出版) ID11020　『サンドイッチの日』(吉田道子　文研ブックランド) ID11021　『べんり家、寺岡の夏。』(中山聖子　文研出版)　ID11022『漢字だいぼうけん』(宮下すずか　偕成社) ID11023　『千の種のわたしへ』(さとう　まきこ　偕成社) ID11024　『イーゲル号航海記』(斉藤洋　偕成社) ID11025　『決戦のとき』(ミッシェル・ペイヴァー　さくまゆみこ訳　評論社) ID11026　『わたしのひよこ』(礒みゆき　ポプラ物語館４８) ID11027　『こたえはひとつ』(立原えりか　すずき出版) ID11028　『翼のはえたコーヒープリン』(西村友里　国土社) ID11029　『ミス・カナのゴーストログ』(斉藤洋　偕成社) ID11030　『家元探偵マスノくん』(笹生陽子　ポプラ社) ID11031　『きっとオオカミぜったいオオカミ』(山崎玲子　国土社) ID11032　『かあちゃん取扱説明書』(いとうみく　童心社) ID11033　『こぎつねボック』(いまむらあしこ　文研出版) ID11034　『迷宮ヶ丘四丁目　身がわりバス』(日本児童文学者協会　偕成社) ID11035　『春へつづく』(加藤千恵　ポプラ社) ID11036　『黄色い本』(緑川聖司　ポプラポケット文庫) ID11037　『銭天堂』(廣嶋玲子　偕成社) ID11038　『日本語を味わう名詩入門　山之口バク』(あすなろ書房) ID11039　『さよならのかわりに　きみに書く物語』(一色悦子　随想舎) ID11040　『弥生人の心にタッチ！』(今関信子　くもん出版) ID11041　『ぼくらの街にキリンがやってくる』(志茂田景樹　ポプラ社) ID11042　『おばあちゃんのことばのまほう』(漆原智良　アリス館) ID11046　『おにのパンツ』(鈴木博子　ひさかたチャイルド) ID11047　『ウマがうんこした』(ゆうきえつこ　そうえん社) ID11048　『ならの木のみた夢』(やえがし　なおこ　アリス館) ID11053
『どんぐりむし』(有沢重雄　そうえん社) ID11050
『ともに生きるちえ』(井の頭自然文化園園長　成島悦男　偕成社) ID11051　『ことばのゆらい図鑑』(ヒサ　クニヒコ　ハッピーオウル社) ID11043

★　★　★　★　★　★　★　★

今月入った本のなかから

✿大きい人に(小４以上～大人)
『あん』ID11069
若いころ、夢はあったけど生き方を間違えた男の人と、母子家庭の中学生の女の子が、つぶれかけそうなどら焼き屋を舞台にあるおばあさんにあって、しっかりと前を向いて生きてゆこうと思う物語です。先月入った伝記読み物『神谷美恵子―ハンセン病と歩んだ命の道程』ID10979 と合わせて読んでみてください。

✿入学した人たちへ
読みつがれている絵本を２冊。
アンデルセンの『はだかの王さま』ID11058(絵がすてきです)と『せいめいのれきし』(宇宙のことが地球のことがひろがります)です。

✿今月は読み物がいっぱい日本のも外国のものおもしろそうなものもたくさん。

庭の白いクリスマスローズ

４月に文庫に新しくはいった大人の本

『鐘の渡り』（古井由吉著　新潮社 14）ID15545　『スペードの３』（朝井リョウ著　講談社 14）ID15593　『海と月の迷路』（大澤在昌著　毎日新聞社 13）ID15599　『明日死ぬかもしれない自分、そしてあなたたち』（山田詠美著　幻冬舎 13）ID15600
『豆の上で眠る』（湊かなえ著　新潮社 14）15606
『私に似た人』（貫井徳郎著　朝日新聞出版 14）ID15609　『存在しない小説』（いとうせいこう著　講談社 13）ID15619
『サラの鍵』（タチアナ・ド・ロネ著　新潮 10）ID15624　『血を売る男』（余華著　飯塚容訳　河出書房新社 13）ID15546※request　『This is the Life』（アレックス・シアラー著　求龍堂 14）ID15604※ヤングアダルト世代に人気がある作家。これは一押しだと人気翻訳者が言っている。　『ウィニー・ザ・プー』（A. A.ミルン作　阿川佐和子訳　新潮社 14）ID15603※クマのプーさんを阿川訳でどうぞ!　『ホーム』（トニ・モリスン著　早川書房 14）ID15598※request
『プーランクを探して―音楽と人生と』（久野麗著　春秋社 13）ID15547　『日本人らしさの発見』（芳賀綏著　大修館書店　13ID15548　『花に囲まれて暮らす家』（吉谷桂子・博光著　集英社　08）ID15554　『ぼくのいい本こういう本』（松浦弥太郎著　朝日新聞出版 14）ID15607　※request　『昭和の名歌』（野ばら社 13）ID15555　『昭和ことば辞典』（大平一枝著　ポプラ社 13）ID15550　『永遠の詩 08　八木重吉』（小学館 10）ID15620　『いつもおおきん 一行詩と歩く若狭町の四季』（福井県若狭町編　北星社 13）ID15596※大室高原でもこんなのできたらいいな！
『イギリス児童文学の原点と展開』（国立国会図書館国債子ども図書館 13）ID15601
『きしのあかしや―木下杢太郎随筆』（上田博編　日本図書センター　02）ID15595　『二月の雪、三月の風、四月の雨が　輝く五月をつくる』（内館牧子著　潮出版社 12）ID15556　『1000 年後に生き残るための青春小説講座』（佐藤友哉著　講談社 13）ID15602
『書かずにはいられない　北村薫のエッセイ』（新潮社 14）ID15608※request　『疎外と叛逆』（ガルシア・マルケス＋バルガス・ジョサ著　寺尾隆吉訳　水声社 14）DI15605
『嫌われる勇気』（岸見一郎、古賀史健著　ダイヤモンド社 13）※タイトルに惹かれて購入したら、今結構売れてる本。
『ニクソンとキッシンジャー』（大嶽秀夫著　中公新書 13）ID15612※request
『空也上人がいた』（山田太一著　朝日文庫 14）ID15610　『縦横無尽の文章レッスン』（村田喜代子著　朝日文庫 14）ID15611　『保守とは何か』（福田恒存著　文藝春秋 13）ID15614※request　『粗にして野だが卑ではない―石田禮助の生涯』（城山三郎著　文春文庫　33 刷）ID 15549　『懐かしい年への手紙』（大江健三郎著　講談社文芸文庫）ID115553　『岩波茂雄と出版文化』（村上一郎／竹内洋解説　講談社学術文庫 13）ID15597

♡いただきました♡

『無理　上・下』（奥田英朗著　文春文庫）ID15581,2
『白砂』（鏑木蓮著　双葉文庫）ID15585　『思い出探偵』（鏑木蓮著　PHP 文芸文庫）ID15580　『ねじれた過去』（鏑木蓮著　PHP 文芸文庫）ID15584
『時限』（鏑木蓮著　講談社文庫）ID15583
『警官の血上・下』（佐々木譲著　新潮文庫）ID15591,2
『グレイヴディッカー』（高野和明著　講談社文庫）ID15587　『K・N の悲劇』（高野和明著　講談社文庫）ID15586
『探偵ガリレオ』（東野圭吾著　文春文庫）ID15589
『予知夢』（東野圭吾著　文春文庫）ID15590
『影踏み』（横山秀夫著　祥伝社文庫）ID15579
『飛行機の乗るのがおもしろくなる本』（エアライン研究会編　扶桑社文庫）ID15577　以上文庫
『呆韓論』（室谷克実著　室谷克実著　産経セレクト

たくさんのご寄付をいただきました。
寄付して下さった H さんのご希望にそって,子どもたちに夢と希望をあたえる岩波少年文庫の補充にあてさせていただきます。深謝。　（沙羅の樹文庫）

「やってみよう☆ビブリオバトル（書評合戦）」

ひとりの読書を楽しむだけでなく、こんな楽しいゲーム？もあります。

私は世田谷区民で、本は区内の図書館数か所で借りていますが、区内の図書館活動にはあまり時間を割けず、通常かかわっているNPOまちだ語り手の会を通して町田市中央図書館のイベントに参加することがあり、これも図書館主宰の≪春の子ども祭り≫の一環で行われたものです。

参加者はおとなで、挑戦者も中学生以上でしたが、とても心躍る時間でした。

方法：1人5分間の持ち時間。それを目いっぱい使って、自分の推薦する図書の紹介をする。そのあと、会場から2分間の質問を受ける。7人1組で、2部構成。科学から経済、文学までいろいろな本が飛び出し、参加者は挑戦者の話を聴いてどの本が一番読みたくなったか、挙手の数で覇者を決める。宇宙の謎を探る本(タイトル亡失)で時間遵守、すばらしい紹介をした中学2年生が優勝。文庫でも形態は違ってもこんな楽しい読書会をやってみたい、と思いました。

♡お願い
用事があって文庫開館日に本を返せない場合は　文庫に電話するか　渉外係までお届下さい　（森川・51　3171）

若葉が萌えだした沙羅の樹